

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①竹信三恵子著『ピケティ入門』金曜日(127頁, 四六判)</p> <p>世界的なベストセラーとなったトマ・ピケティ著『21世紀の資本』の読み方をわかりやすく解説。日本の格差の現場を取材してきた新聞記者の目を生かし、ピケティの格差論を紹介する。ピケティのメッセージは、格差を放置せず、平等に向けて格差縮小の努力をすること、と著者は明示。ピケティは問題解決として、所得税への累進課税の引き上げや世界的資本税の導入、スキルの向上などを説くが、著者は、ピケティ理論から、アベノミクスの地方創生、女性が輝く社会、労働規制の緩和などを批判的に検討。ピケティから学ぶことは、格差は放っておいてはならないこと、困難でも必要なことを可能にする道を探ること、すべてか無かという発想に陥らないことだという。</p>	<p>③村上由紀子著『人材の国際移動とイノベーション』NTT出版(253頁, 四六判)</p> <p>本書の第一の特徴は、高い教育を受けた高度人材の国際移動とイノベーション(革新)を結びつけるというテーマの独自性にある。従来の研究では、高度人材の国際移動が知識の普及・創出や経済成長につながる効果がほとんど考察されていないと指摘。経済学にとどまらず、経営学、社会学、自然科学など多様な学問を用いてテーマに挑んでいる「学際性」が第二の特徴。また、不確実性のある経済のなかで、人材の国際移動によるイノベーションが、日本経済を発展させる処方箋の一つであることも論じている。さらに、知識創造モデルを用いた一貫的考察も特徴である。今後の課題として、国際移動による技術流出問題や知識創造の連鎖の仕組みと人の移動との関係に言及。</p>
<p>②玄田有史著『危機と雇用』岩波書店(xi+247+4頁, 四六判)</p> <p>想像を絶する被害を及ぼした東日本大震災から4年。本書は、豊富な調査データを駆使して、「仕事」という側面から震災のもたらした影響を分析するとともに、再び来るに違いない災害に備えるため、対応状況を記録し、後世に伝えていくことを目指している。震災後の雇用対策として実施された多くの政策が、リーマン・ショック後の緊急な対策を下地に速やかに行われたことを評価。一方、雇用保険に非加入のために職業訓練を受けられない人に対してスタートした求職者支援制度は、使い勝手が良くなかったと指摘。希望学を主唱している労働経済学者として、日ごろから、社会的共通資本としての「信頼関係」を構築しておくことが、被害を最小限にとどめると述べる。</p>	<p>④河西宏祐著『全契約社員の正社員化を実現した労働組合』平原社(326頁, 四六判)</p> <p>2009年の春闘で広島電鉄の労働組合が、雇用労働者の3分の1を占める契約社員全員の正社員化を獲得する一方、400名の正社員が基本給を大幅減額することになった。本書は、約40年にわたって分裂していた2つの組合が統一して以降、現在までの歩みを紹介しつつ、この現象を巻き起こした舞台裏を解説する。背景として、①規制緩和と経営合理化②「パス分社化」提案③労務コスト削減などの経営側の提案に対し、労組側は「契約社員の登用制度の合意」を手始めに、契約社員の処遇改善に努めた軌跡が詳細に描写されている。『全契約社員の正社員化』(2011年、早大出版部)を再編集した普及・改訂版であり、『路面電車を守った労働組合』(2009年、平原社)の姉妹版。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2015年3-4月労働図書館受け入れ)

⑤佐藤満著『厚生労働省の政策過程分析』慈学社出版(212頁, A5判)	⑱柏崎洋美著『労働者へのセクシュアル・ハラスメントに関する紛争解決手続』信山社(xvii+189頁, A5判)
⑥山口道昭著『政策法務の最前線』第一法規(x+319頁, A5判)	⑲日経DUAL編集部編『共働きファミリーの仕事と子育て両立バイブル』日経BP社(174頁, A5判)
⑦江口匡太著『大人になって読む経済学の教科書』ミネルヴァ書房(xxii+392+3頁, 四六判)	⑳久谷與四郎編著『働く人を守る:「連合」25年の実態と役割』日本リーダーズ協会(248頁, A5判)
⑧ラム・チャラン他著『取締役会の仕事』日経BP社(ii+338頁, A5判)	㉑今野久子著『パート・有期雇用労働者の権利Q&A』学習の友社(111頁, A5判)
⑨中嶋哲夫著『正しい目標管理の進め方』東洋経済新報社(247頁, 四六判)	㉒野口裕之他編『組織・心理テストの科学』白桃書房(xi+603頁, A5判)
⑩平康慶浩著『出世する人は人事評価を気にしない』日本経済新聞出版社(245頁, 新書判)	㉓鈴木大介著『最貧困シングルマザー』朝日新聞出版(207頁, 文庫判)
⑪森川美絵著『介護はいかにして「労働」となったのか』ミネルヴァ書房(v+351頁, A5判)	㉔東大社研他編『「持ち場」の希望学』東京大学出版会(x+405+8+2頁, 四六判)
⑫ロア・ユナイテッド法律事務所編著『労働事件:立証と証拠収集』創研舎(xiv+269頁, A5判)	㉕松田茂利著『学校は究極のブラック企業』表現社(241頁, 四六判)
⑬岩出誠著『平成26年改正労働法の企業対応』中央経済社(xvi+216頁, A5判)	㉖常見陽平著『「就活」と日本社会』NHK出版(222頁, 四六判)
⑭高橋賢司著『労働者派遣法の研究』中央経済社(6+4+413頁, A5判)	㉗佐藤英仁著『医師・看護師不足の現状と労働環境』ブイツーソリューション(122頁, 四六判)
⑮角田邦重著『労働者人格権の法理』中央大学出版部(vi+395頁, A5判)	㉘鈴木尚久著『トヨタ生産方式の逆襲』文藝春秋(231頁, 新書判)
⑯労働新聞社編『労働裁判における解雇事件判例集』労働新聞社(482頁, B5判)	㉙藤本隆宏他編著『ケースで解明! ITを活かすものづくり』日本経済新聞出版社(xvii+264頁, A5判)
⑰岩佐卓也著『現代ドイツの労働協約』法律文化社(v+220頁, A5判)	㉚今野聖士著『農業雇用の地域的需給調整システム』筑波書房(173頁, A5判)

### 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書115,000冊、洋書30,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

労働図書館 HP: <http://www.jil.go.jp/lib/index.htm>

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

